鶴谷遺跡群II

前橋総合運動公園事業地内 埋蔵文化財発掘調査概報



1981年 前橋市教育委員会 昭和58年度に開催される「あかぎ国体」にむけて、県内各地でその準備がすすめられています。

ここで報告します鶴谷遺跡群が所在する地域も、テニス会場に 予定され、テニスコートをはじめとする各種スポーツ施設を併設 した前橋総合運動公園として造成されることになり、本年度も、 昨年度にひき続いて文化財保護の立場から第二次調査を実施いた しました。当地内における埋蔵文化財発掘調査は、本年度をもっ て終了いたしました。

調査の結果、弥生時代から平安時代にかけての竪穴住居跡をは じめとして、中世における墓跡や女堀跡など先人の生活の跡を実 証する数多くの遺構、遺物が発見され、私たちの祖先の生活や生 産の歴史を編む上で貴重な資料を得ることができました。ここに、 その成果の一端を報告いたします。

この調査を実施するにあたり、終始ご協力いただいた都市計画 部公園緑地課の方々、及び、酷暑の中で直接調査に携わっていた だいた作業員の方々に対して厚くお礼を申し上げます。

本調査報告書が、地域の歴史解明の一助として活用されれば幸甚であります。

昭和57年3月31日

前橋市教育委員会教育長金井博之

例 言

- 1. 本報告書は、前橋市荒口町及び二之宮町に所在する鶴谷遺跡群の昭和56年度発掘調査の概要である。
- 2. 調査主体は、前橋市教育委員会である。
- 3. 発掘調査の要項

調 査 場 所 前橋市二之宮町字鶴谷127番地他10筆及び荒口町字鶴谷426-1番地他13筆調 査 期 間 昭和56年4月17日~昭和56年8月31日

発掘担当者 松本浩一、木部日出雄、鵤木晋一、布施和男、田口正美

- 4. 本書の作成は、調査にあたった担当者の共同討議に基づき、木部日出雄、鵤木晋一、田口正美 が執筆を担当した。
- 5.96号住居跡出土の炭化遺物の分析・鑑定は、群馬県農業試験場経営部長、農学博士近藤晃氏に お願いした。

なお、炭化米の写真は宇貫達男氏の提供による。

- 6. 出土遺物の実測及び図面作成は、安藤友美、佐藤久美子、中東彰子、洞口恵美子、渡辺美鈴が 担当した。
- 7. 本書で用いる方位Nは、磁北を示す。
- 8. 本発掘調査における出土遺物は、一括して前橋市教育委員会で整理保管している。
- 9. 本発掘調査にあたっては、大勢の発掘作業員、整理員の協力をいただいた。

目 次

序	文	
Ι	はじめに	
II	発掘調査の概要	3
1	. 検出遺構	3
	・ パーン ・ ピット、井戸、溝状遺構	
3	. 竪穴住居跡	3
		7
	(2) 古墳時代	8
	(3) 奈良・平安時代11	表紙の写真・96号住居跡
4	. 竪穴住居跡からの出土遺物12	No.@ No.81
	(1) 出土遺物一覧12	
	(2) 96号住居跡出土の炭化遺物23	No.84 No.82
5	. 女堀遺構33	
6	. 古墓・集石遺構34	No @ So

Ⅲ まとめ………………36 炭化米の入っていた壺(○印)の出土状況

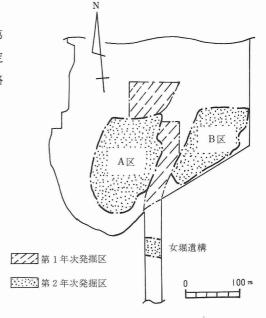
I はじめに

本年度の発掘調査は、昨年度(昭和55年度・第 1年次)にひき続き、前橋総合運動公園造成予定 地内の自由広場予定地・駐車場予定地・進入道路 予定地の一部分について実施した。

本年度の調査面積は下記の通りである。

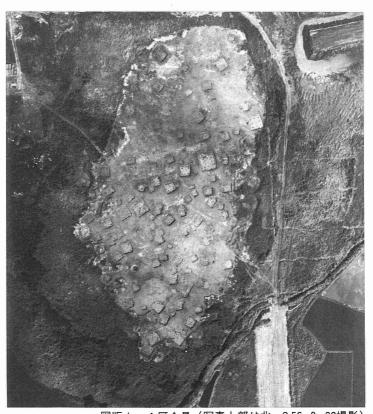
発掘区総面積······約23300㎡

- (1)発掘区西部 = A区(自由広場予定地) 約15000㎡
- (2)発掘区東部=B区(駐車場予定地) 約 8000m²
- (3)女堀遺構(進入道路予定地の一部) 約 300m²



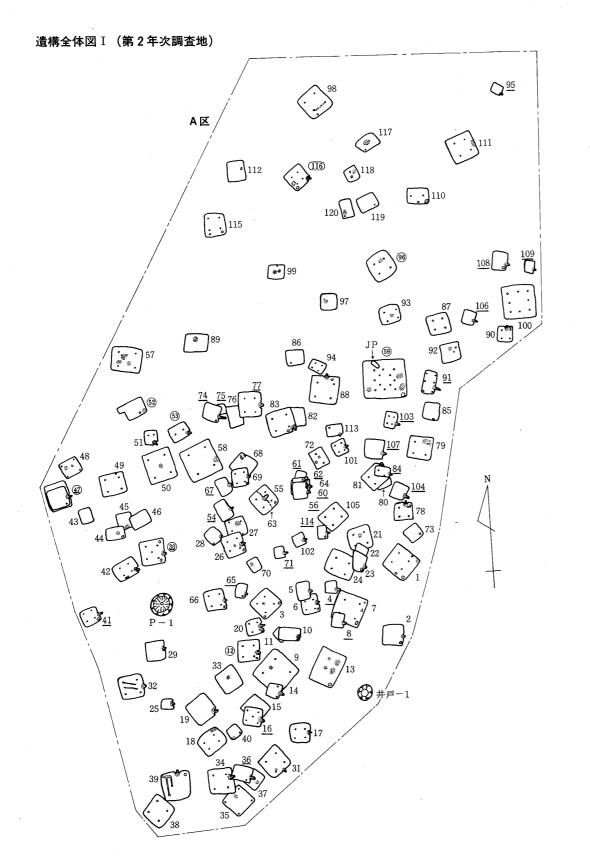
插図 I 発掘区位置図

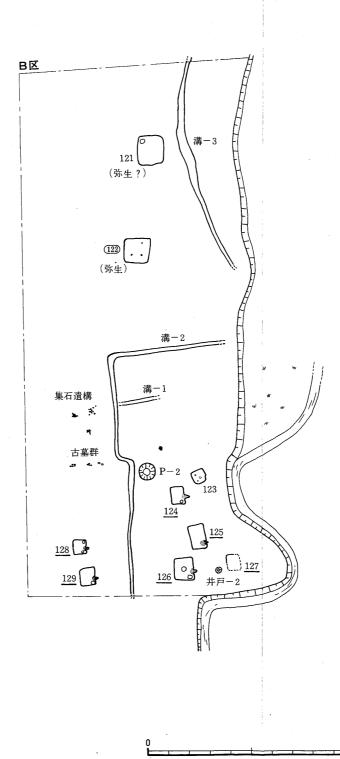
※遺跡の位置と環境・地層については、第1年 次の調査報告書を参照のこと。



図版 I A区全景(写真上部は北、S 56.8.30撮影)

- 2 -





数字下に線無……古墳時代
数字下に線有……奈良・平安時代

JP……………縄文時代のピット

P………奈良・平安時代のピット

○……抽出した住居跡

遺構全体図11 (第1年次・第2年次調査地)

Ⅱ. 発掘調査の概要

1. 検出遺構

本年度の発掘調査の結果検出した遺構は古代から中世に及び、竪穴住居跡 129、ピット3、井戸 状遺構2、溝状遺構3、古墓群1、集石遺構4、女堀遺構1で、総遺構数 143であった。

時代別に分類すると下表のようになる。

表 1

時代	_	_	遺構	竪穴住居跡	ピット	井 戸	溝	古墓群	集石遺構	女堀遺構	総 数
繩	文	時	代	0	1	0	0	0	0	0	1
弥	生	時	代	1(+1?)	0	0	0	0	0	0	1(+1?)
古	墳	時	代	93	0	0	0	0	0	0	93
奈瓦	Į· ¬	下安田	寺代	34	2	2	3	0	0	0	41
中			世	0	0	Ö	0	1	4	1	6
É	ì	Ē	†	129	3	2	3	1	4	1	143

[※] 上表のうち、弥生時代の竪穴住居跡欄の(+1?)は 121号住居跡(B区)をさす。この住居跡からは 遺物が出土しなかったが、122号住居跡(弥生土器伴出)と位置的にも近く、住居跡の形も極めて類似して いることから、一応、弥生時代のものとして考えた。

2. ピット、井戸、溝状遺構

表 2

遺構	形状	規模	深さ(確認面より)	備考
ピット1	円形・すりばち状	直径約5.3m	約2.3m	●上部2層目にB軽石純層(紫灰)確認●出土遺物は土師器の小片が少し。
ピット2	円形・すりばち状	直径約4 m	約1.5m	●上部2層目にB軽石純層(紫灰)確認 ●深さ約70㎝の土層に焼土粒を多く含み、その下部に焼石が出土。他に遺物なし。
井戸 1	円 筒 形	直径約3.1m	約2.2m + α	●深さ約1.35mの面で湧水。●深さ約1mの土層中より、土師器・坏(墨書「尺」)、須恵器・蓋など多数出土。
井戸 2	円筒形	直径約1.4m	約2 m + α	●深さ約1 mの面で湧水。出土遺物なし。
溝1、2		溝 1 幅 約 0.5 m 溝 2 幅 約 0.9 m	約0.15 m 約0.3 m	●埋土は、いずれもC軽石を含む黒褐色土
溝 3		幅約2.5m	約 0 .5m	●上部1層目にB軽石純層(紫灰)確認

3. 竪穴住居跡

本遺跡地から検出された遺構の約90%は竪穴住居跡であった。検出した竪穴住居跡 1 号~ 129 号についてまとめると次のようになる。なお、1 号~ 120号は A 区から、121号~129号は B 区から検出された。

竪穴住居跡一覧

表3

住居 番号	規模(長壁×短壁)(m)	形状	方向(長壁または)	カマド	周溝	柱穴	重複関係	備	考
1	6.7×6.6	方 形	N 52° W	なし 炉跡あり	なし	なし		住居内穴3あり	
2	5.0×4.8	方 形	N-5°-E	あり 東壁中央	一部分あり	なし		貯蔵穴あり	
3	5.7×5.6	方 形	N-44°-E	なし 炉跡あり	あり	あり 4		住居内穴2あり、住居内中央	き部に焼石5つ散布
4	2.9×2.8	方 形	N-3°-W	あり 東壁南寄り	あり	なし	7 7 8		
5	3.6×3.2	方 形	N-7°-W	あり 東壁南寄り	あり	なし	6 → 5		
6	4.3×4.0	方 形	N —13° —W	あり 東壁南寄り	なし	あり 4	0→5		

住居 番号	規模(長壁×短壁)(m)	形状	方向(長壁または)	カマド	周溝	柱穴	重複関係	備考
7	7.2×7.0	方 形	N-67°-W	なし 炉跡あり	なし	あり 4	_ , 4	住居穴1あり
8	3.5×2.9	方 形	N-12°-E	あり 東壁南寄り	なし	なし	7 4 8	貯蔵穴あり
9	8.0×7.9	方 形	N-43°-E	なし 炉跡あり	あり	あり 4	9→14	住居内中央部やや南東寄りに、焼土粒混りの、黒色土 で埋った直径1m、深さ20cmの円形穴あり
10	4.9×2.9	方 形	N-10°-E	あり 東壁南寄り	なし	なし		貯蔵穴あり
11	3.0×2.4	方 形	N -41° -W	不明	なし	なし (推)		10 号住居により $\frac{2}{3}$ ほど壊されている
12	5.0×4.9	方 形	N-2°-E	あり 東壁南寄り	なし	あり 4		貯蔵穴あり、カマドに石使用
13	8.1 ? ×6.0 ?	方 形	N —26° — E	なし 炉跡あり	なし	なし		炉跡と考えられる焼土のかたまりが4ヵ所ほどあるが 住居の壁は、はっきりしない
14	3.0×2.9	方:形	N-12°-E	おり 東壁南寄り	なし	なし	9 →[4]	·
15	4.9×4.8	方 形	N-46°-E	なし(推)	なし	不明		16 号住居により $\frac{1}{2}$ 以上壊されている
16	4.4×4.2	やや 隅丸方形	N-14°-E	あり 東壁南寄り	なし	あり 5	15→16	
17	4.4×4.4	方形	N-5°-E	あり 東壁中央	なし	あり 4		貯蔵穴あり
18	6.0×4.8	方 形	N-49°-E	なし 炉跡あり	あり	あり 4		火災住居、西壁北部の住居外に、床面から約36cm上が ったところに、張出し状のものがある
19	5.8×5.6	方 形	N — 54° — E	なし 炉跡あり	あり	あり 4		火災住居、炉跡は南東隅にあり、焼けこみが激しく、 カマドへの移行期のものか?
20	3.8×3.7	方 形	N —16° — W	あり 東壁中央	あり	あり 4		貯蔵穴あり
21	5.2×4.9	方 形	W-14°-S	なし 炉跡あり	一部分あり	あり 4		火災住居? 炭化物を多く検出
22	2.6× ?	方 形	N −25° − E	なし(推)	なし (推)	なし (推)	21 ↓	
23	3.8×2.7	方 形	N-14°-W	あり 東壁南寄り	なし (推)	なし	22 22 23 24	貯蔵穴あり
24	6.4×5.5	方 形	N -65° -W	なし	なし	あり 4		
25	3.1×2.5	方 形	N-3°-W	あり 東壁南寄り	なし	なし		_
26	5.0×4.9	隅丸方形	N-15°-W	あり 東壁南寄り	あり	あり 4	97	貯蔵穴あり
27	4.5×4.5	方 形	N −17° −W	なし 炉跡あり	なし	あり 4	27 (##) 26	
28	3.6×3.0	やや 隅丸方形	N 40° W	あり 南東隅	なし	なし	28	住居内穴1あり
29	4.8×4.6	方 形	N-10*-W	あり 東壁中央	あり	なし		
30	5.8×5.7	方 形	N-4 °-W	あり 東壁南寄り	あり	あり 5		カマドの袖にカメ使用
31	5.9×5.7	方 形	N −49° − E	なし 炉跡あり	一部分 り	あり 5		貯蔵穴あり、東壁中央部分に、焼土を含む張出し状の ものがある
32	5.8×5.6	方 形	N - 7° - W	あり 東壁南寄り	あり	あり 4		貯蔵穴あり、住居内中央部に、約1mの間隔をおいて 2本の溝が東西に平行して作られている。 溝は、2本とも幅20〜25㎝、深さ9㎝、東西2.7m
33	5.2×5.0	方 形	N −32° −W	なし 炉跡あり	なし	なし		
34	5.5×5.5	方 形	N −10° −W	あり 東壁中央	一部分 あ り	あり 4		
35	5.8×5.5	方 形	N-47°-E	なし 炉跡あり	一部分あり	あり 4	37	
36	4.7×3.4	方 形	N −18° − E	あり 東壁南寄り	一部分あり	なし	37 34→36 35	
37	4.0× ?	方形(推)	N −34° − E	なし 炉跡あり	なし	なし		
38	5.8×5.7	方 形	N-42°-E	なし 炉跡あり	一部分あり	あり 4		
39	7.2×6.8	方 形	W-10°-S	あり、炉跡 北壁東寄り	あり	なし		貯蔵穴あり、住居内西寄りに、2本の溝が西壁に平行して、約50cmの間隔をおいて作られている。 溝は、2本とも幅20cm、深さ10cm、南北長4.1mで、1 本は七字型に折れ曲がっている。
40	2.8×2.7	方 形	N-52°-E	なし 炉跡あり (南東隅)	なし	なし		炉はカマドに移行する過渡期のものか?
41	3.9×3.5	方 形	N-22°-W	あり 東壁南寄り	あり	あり 4		貯蔵穴あり

住居 番号	規模(長壁×短壁)(m)	形状	方向(長壁または)	カマド	周溝	柱穴	重複関係	備考
42	5.6×4.0	方 形	N - 25° - W	あり 南東隅	なし	あり 4		住居内穴2あり
43	3.5×2.8	方 形	N-13°-W	あり 南東隅	なし	なし		
44	4.1×2.7	方 形	W-12°-S	なし 炉跡あり	なし	なし		
45	3.7×3.3	方 形	N-11*-W	なし 炉跡あり	なし	なし	44 46 45	
46	4.4×3.2	方 形	N-61°-E	なし	なし	なし		住居内が、新しい穴により攪乱されているため、炉跡 検出せず。
47)	6.4×5.3 (4.7×4.6?)	方 形	N-13°-W	あり 東壁南寄り (不明)	な し (あり)	あり (なし?)		拡張の可能性をもつ住居跡、()内は旧住居のデータ。
48	4.0×3.7	方 形	W-28°-S	なし 炉跡あり	なし	なし		
49	5.3×4.8	方 形	W-9°-S	なし	あり	あり 4		
50	7.1×6.3	方 形	N-28°-W	なし 炉跡あり	なし	あり 4		住居内穴1あり
51	3.1×2.8	方 形	N-8°-W	あり 南東隅	なし	あり 4		
52	4.7×3.9	方 形	N —25° —W	なし 炉跡あり	なし	なし		北西隅に張出しの施設を持つ。
53	4.7×3.6	方 形	N -30° -W	あり 南東隅	あり	あり 2		カマドの西側にある貯蔵穴を、東から北側にかけてとり囲むように、高さ5cm、幅20cmの土手状のものがある。
54	4.5×3.0	方 形	N -28° -W	あり 東壁南寄り	なし	なし		
55	5.3×5.0	方 形	N-41°-W	なし	あり	あり 4	55→63	
56	3.8×3.4	方 形	N-5°-W	あり 東壁南寄り	あり	なし	64→56→60	i
57	6.8×5.7	方 形	N —82° —W	なし 炉跡あり	一部分あり	あり 4		住居穴1あり
58	7.8×7.5	方 形	N-65°-E	なし 炉跡あり	一部分あり	あり 4		炉跡は東壁南寄りにあり、カマドに移行する過渡期の ものか?
59	9.3×9.3	方 形	N-2°-W	なし 炉跡あり	あり	あり 8+4	J.P→59	住居内穴 4 あり
60	3.9× ?	?	N-10°-W	なし(推)	なし (推)	不明	64→56→60	
61	2.5× ?	方形(推)	N-20°-E	不明	不明	不明		
62	?	方形(推)	N-10°-E(推)	あり 東壁	不明	不明	62→61	カマドのみ残存
63	?	方形(推)	N-41°-W(推)	あり 東壁(推)	不明	不明	55→63	浅く、カマドのみ残存
64	3.8 ? ×3.6	方形(推)	N((推)	あり、東壁 北寄り(推)	不明	不明	64→56→60	
65	3.2×2.3	方 形	N−15°−E	あり 東壁南寄り	なし	なし		貯蔵穴あり
66	4.7×4.6	方 形	N-13°-W	あり 東壁南寄り	なし	あり 4		貯蔵穴あり
67	3.8×2.9	方 形	N-32°-W	あり 東壁南寄り	なし	なし		
68	5.2×4.5	方 形	N,—58° —W	なし 炉跡あり	一部分あり	なし(?)	20 20	
69	4.1×3.8	方形	N-10°-W	あり 東壁中央	なし	あり4	68→69	貯蔵穴あり
76	3.2×2.7	方 形	N -28° -W	なし 炉跡あり	なし	なし		
71	2.6×2.4	方 形	N-5°-W	あり 東壁南寄り	なし	なし		
72	4.4×3.4	方 形	N-30°-W	なし 炉跡あり	なし	なし(?)		柱穴らしい穴が2あるが、位置的に少しズレている。 住居内穴1あり
73	3.8×3.5	方 形	N 54° E	なし	なし	なし		貯蔵穴あり
74	3.9×3.6	方 形	N-20°-E	あり 東壁南寄り	一部分あり	あり 4		煙道残存
75	2.1× ?	方 形	N-11°-W	不明	なし(?)	なし(?)	74→75	遺物伴出せず。
76	5.1×3.1	方 形	N-11°-W	不明	+	なし	76→77	
76	5.1×3.1	方 形	N-11°-W	不 明	なし(?)	なし		

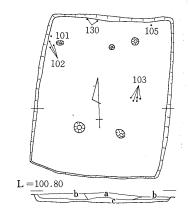
住居番号	規模(長壁×短壁)(m)		方向(長壁または)	カマドあり、東壁	周 溝	柱穴あり	重複関係	備考
77	5.2×5.0	方 形	N-2°-E	やや南寄り	あり	4		貯蔵穴あり
78	4.3×4.1	方 形	N — 85° — E	あり、北壁 やや東寄り	あり	あり 4 あり		貯蔵穴あり
79	5.5×5.2	方 形	N -80° -W	なし 炉跡あり	あり	あり 4		住居内穴あり
80	5.2×3.3	方形(推)	N -27° - W	なし(推)	なし	不明	80→81→84	
81	5.0×4.4	方 形	N −49° − E	なし(?)	なし	あり 4	80→81→84	
82	4.0× .?	方 形	N-1°-W	不 明	なし	なし(?)	82→83	
83	5.8×5.8	方 形	N —13° —W	あり 南東隅	一部分あり	あり 4		住居内穴1あり
84	3.6?×2.2?	方 形	N-7*-E	あり 東壁南寄り	なし	なし	80→81→84	
85	3.5×3.3	方 形	N-15°-E	なし 炉跡あり	なし	なし		住居内穴3あり
86	3.9×3.6	方 形	W-5°-S	なし	なし	なし		
87	5.0×4.7	方 形	N —79° — E	なし 炉跡あり	一部分あり	あり 4		
88	6.6×6.5	方 形	N —81° —W	あり 北壁中央	一部分あり	あり 4		貯蔵穴あり
89	5.2×4.4	方 形	N -88° -W	なし 炉跡あり	なし	なし		
90	3.5×3.5	方 形	N —85° —W	あり 北壁中央	なし	あり 4		貯蔵穴あり
91	5.2×2.9	方 形	N-13°-E	あり 東壁南寄り	なし	なし		貯蔵穴あり
92	4.5×4.4	方 形	W-13°-S	なし 炉跡あり	なし	なし		
93	4.7×4.2	方 形	N-78°-E	なし 炉跡あり	なし	なし		
94	3.5×2.3	方 形	N-64*-W	なし 炉跡あり	なし	あり4		管玉出土
95	2.6×2.1	方 形	N-23°-E	あり 東壁南寄り	一部分あり	なし		
96	6.0×5.4	隅丸方形	N — 29° — W	なし 炉跡あり	なし	あり 4		火災住居、住居内穴 2 あり、炭化米出土
97	3.6×3.5	方 形	N-2*-E	なし 炉跡あり	なし	なし		住居内穴 1 あり
98	5.9×5.9	方 形	N-42°-W	なし 炉跡あり	なし	あり 4		
99	3.3×3.1	方 形	N-88°-W	なし 炉跡あり	なし	なし		住居内穴2あり 炉跡と推定される焼土範囲2ヵ所あり
100	7.8×7.7	方 形	N-5°-W	なし	なし	あり 8		
101	3.1×2.9	方 形	N-23°-W	あり 東壁南寄り	なし	あり 4		貯蔵穴あり、石製模造品多数出土。 住居内中央部に直径60cm、深さ20cmの穴あり
102	2.9×2.7	隅丸方形	N-25°-W	あり 東壁南寄り	なし	なし		貯蔵穴あり
103	3.6×3.0	方 形	N-17°-E	あり 東壁南寄り	一部分あり	あり 4		貯蔵穴あり
104	3.6×3.0	方 形	N-63°-W	あり 東壁南寄り	あり	なし		
105	5.8×4.9	隅丸方形	N-48°-E	なし	なし	あり 4	105 → 114	住居内穴 2 あり、石田川期の土器出土
106	3.2×3.1	方 形	N-7°-E	あり 東壁南寄り	あり	なし		住居内南西隅に小石の集石群を検出 カマドの袖にカメ使用
107	4.7×4.5	方 形	N-10°-E	あり 東壁南寄り	あり	なし		カマドの袖にカメ使用
108	4.0×3.7	方 形	N-9°-E	あり 東壁南寄り	なし、	なし		貯蔵穴あり
109	2.7×2.2	方 形	N-11°-E	あり 東壁南寄り	なし	なし		住居内穴2あり
110	4.9×3.6	方 形	N —88° — W	なし 炉跡あり	一部分あり	あり 2?		南東隅に、多数の土器を伴う焼土検出。
111	6.4×6.0	方 形	W-24°-S	なし 炉跡あり	あり	あり 4		東壁中央部に、多数の土器を伴う焼土検出。 住居内北西隅に張出しの可能性を持つ施設あり。

住居 番号	規模(長壁×短壁)(m)	形状	方向 (長蟻または)	カマド	周 溝	柱穴	重複関係	備考
112	4.4×4.0	方 形	N-8°-W	なし	なし	なし		
113	3.5×2.5	隅丸方形	N 80° E	あり 南壁東寄り	なし	なし		住居内穴2あり
114	3.0×2.1	方 形	N-8°-W	あり 東壁南寄り	なし	なし	105→114	貯蔵穴あり
115	4.8×4.7	方 形	N - 5 ° - W	なし	なし	あり 4		
116	4.5×4.3	方 形	N — 37° — W	あり 北東隅	なし	あり 4		火災住居、住居内南東に穴2あり
117	3.7×2.8	方 形	N 36° E	なし 炉跡あり	なし	なし		
118	3.2×3.1	方 形	N -30° -W	なし	なし	なし		
119	4.2×3.2	方 形	N −59° − E	なし	なし	なし		住居内穴3あり
120	4.1×2.6	方 形	N-17°-W	なし 炉跡あり	なし	なし		
121	3.8×3.7	不整方形	N-6°-E	なし	なし	なし		住居内穴1あり、122号住居跡と類似
122	4.9×3.9	方 形	N −10° − E	なし	なし	なし(?)		弥生期の土器伴出
123	3.0×2.7?	不整方形	N-16°-W	なし 炉跡あり	なし	なし		
124	3.8×2.9	方 形	N - 5 ° - W	あり 東壁南寄り	なし	なし		貯蔵穴あり
125	5.8×3.7	方 形	N-5°-W	あり 東壁南寄り	なし	なし		
126	5.1×4.7	方 形	N	あり、東壁 やや南寄り	一部分あり	あり4		貯蔵穴あり、カマドの袖にカメ使用
127	4.2? ×3.8?	不明	N-2°-E	不明	不明	不明	127→井戸	井戸状遺構で住居の大部分を破壊されている
128	3.6×2.8	方 形	N	あり、東壁 やや南寄り	なし	なし		住居内穴2あり
129	3.9×2.7	方 形	N — 5 ° — E	あり 東壁南寄り	あり	なし		貯蔵穴あり

※ ● (推)は推定の意味

- ほぼ正方形で、長壁と短壁の区別のつかない住居跡の壁の方向は、東壁を計則した。
- ●住居番号○印は、抽出した住居跡

(1) 弥生土器伴出の住居跡(122号)



0 | 2 m

a : 黒褐色土層 (ロー

(ローム粒を少し含む、C軽

石を含む)

b:茶褐色土層 (ローム粒を含む、C軽石を

含む)

(ローム粒を多く含む、C軽 石を少し含む)

※122号住居跡

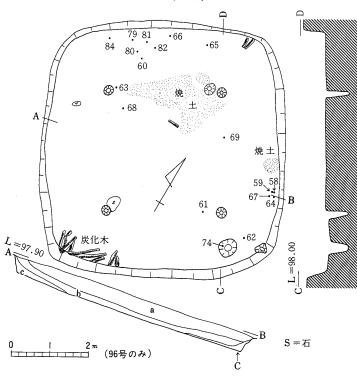
c :黄褐色土層

- ○炉跡は検出しなかった。
- ○柱穴は、南に1対(西側深さ600m、東側深さ300m) それらしい穴を検出したが、他に対応するものがなく不明。
- ○床面は非常にやわらかく、遺構確認面から床面までの深さは25omで、浅かった。

挿 図 4

(2) 古墳時代

① 炭化米伴出の住居跡 (96号)



- a:黒色土層
- (c軽石を多く含む)
- b:暗褐色土層

(ローム粒、c軽石を含む、

炭化物を多く含む)

c:黒褐色土層

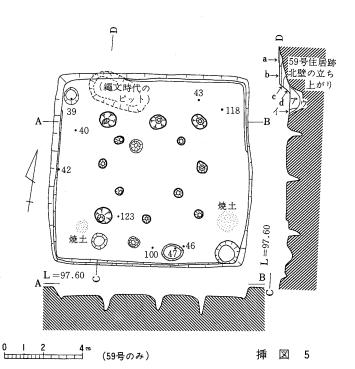
(c軽石を少し含む、炭化物

を多く含む)

※ 96号 住居跡

- ○埋土中に炭化物が多く含まれ、床面上に炭化 木を多く検出したことから、火災にあった住 居と推定される。
- ○炭化した米が入っていた壺はNo79とNo80である。炭化米は黒ボク土に混じって、壺の約3分の2ほどの分量で出土し、粒状のものと、焼けついてブロック状になったものが混在していた。
- 〇出土遺物のうち、壺は14個体(含大型1)、 脚付カメは5個体であった。
- O床面は全体に固く、特に4柱穴を結んだ内側 はよくしまっていた。

② 大型住居跡(59号)



- a:黒色土層 (c軽石を含む)
- b:黒褐色土と

(c 軽石を少し含む)

暗褐色土の 混 土 層

c : 暗褐色土層 (

(c 軽石を少し含む) (c 軽石を少し含む)

d :黒褐色土層

ア:暗褐色土層

イ:茶褐色土層

ウ:黄褐色土層 (ローム)

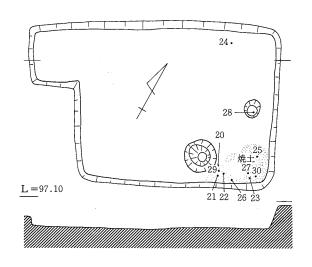
a~d層は59号住居跡の埋土

ア~ウ層は繩文時代のピットの埋土

※ 59号 住居跡

- ○本遺跡内で最大の規模をもつ住居跡。
- O柱穴は外側に8、内側に4、合計12を有する。
- ○床面は全体に固く、特に内側の4柱穴を 結んだ内側は、よくしまっていた。

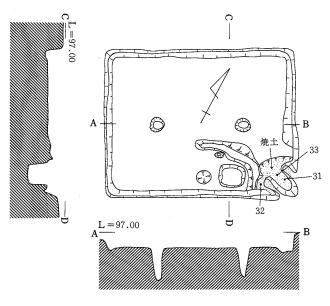
③ 張り出しのある住居跡 (52号)



※52号住居跡

- ○張り出しを有する住居跡としては、本遺跡で唯 一
- ○床面は、中央部が固くしまり、周辺部及び張り 出し部分は比較的やわらかい。
- ○柱穴は不明。
- ○南東隅に焼土が約20omの厚さで堆積しており、 遺物はここに集中して出土した。
- ○貯蔵穴の深さは56cm。

④ 2柱穴の住居跡 (53号)



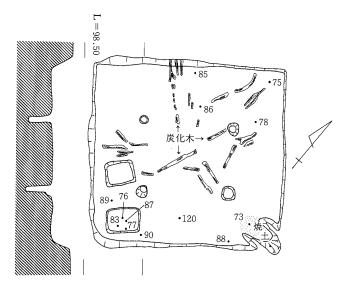
※53号住居跡

- ○カマドは住居内の南東隅に造られ、袖部分は粘 土でかためられていた。焼けこみが激しく、袖 部分の確認も困難なほどであった。
- ○柱穴は、住居跡中央部に2つ、しっかり掘りこ まれたものを検出した。
- ○カマドの西側に造られた貯蔵穴をとりかこみ、 カマド部分との境界をなすように造られたと思 われる帯状の土手(高さ約5 cm)が認められた。
- ○床面はしっかりしていたが、特に上記土手の部 分及びカマドの前の部分は、固くしまっていた。

0 ! 2 **

插 図 6

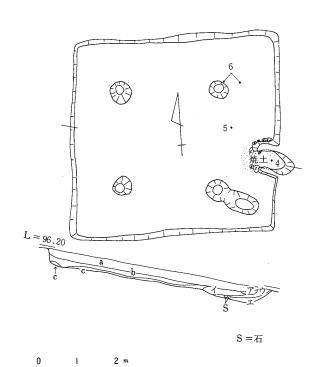
⑤ 火災にあった住居跡 (116号)



※116号住居跡

- ○埋土中に炭化物が多く含まれ、床面上に炭化 木を多く検出したことから、火災にあった住 居と推定される。
- ○カマドは、住居内の南東隅に造られ、袖部分 は粘土でかためられていた。焼けこみが激し く、袖部分の確認も困難なもどであった。
- ○床面は、4柱穴を結んだ内側が固くしまって いた。
- ○炭化木の残存状態はよく、焼けた後、屋根や 支柱等が北側に崩れたと推定される。

⑥ カマドに石を使用した住居跡 (12号)



插 図 7

- a:黒褐色土層 (ローム粒を少し含む、c 軽石を多く含む、焼土粒を
 - 含む)
- b:黒褐色土層 (a層とほぼ同じ、c軽石、 F系軽石を含む)
- c:黄褐色土層 (ローム粒を多く含む、c 軽石を少し含む)
- ア:暗褐色土層 (c軽石を少し含む、焼土 粒を少し含む)
- イ:黒褐色 土層 (ア層とほぼ同じ、ローム 粒を少し含む)
- ウ:赤 褐 色 土 層 (c 軽石を少し含む、焼土 ブロックを多く含む、固く

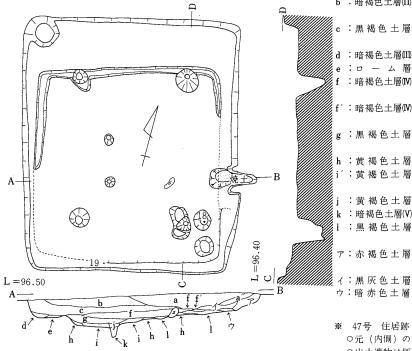
アーエ層はカマド部分

※12号住居跡

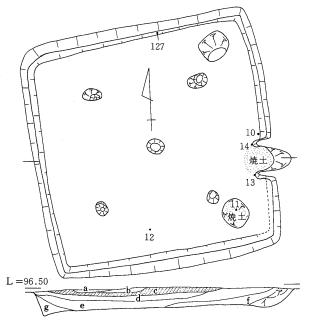
- ○カマド部分に残存していた石は、発泡性の自 然石であり、袖と炊き口の上部を構築してい たと推定される。
- ○床面は、4柱穴を結んだ内側は固くしまって いたが、外側は比較的やわらかであった。
- ○柱穴はしっかりしていた。

(2) 奈良・平安時代

① 拡張の可能性のある住居跡(47号)



② カマドの袖にカメを使用した住居跡(30号)



0 1

插 义 a :暗褐色土層(I)

b :暗褐色土層(II)

c : 黑褐色土層

d :暗褐色土層(III) e:ローム層

g : 黑 褐色土層

h:黄褐色土層

1:黒褐色土層

ア:赤褐色土層

イ:黒灰色土層 ウ:暗 赤色土層:

○元(内側)の住居跡の柱穴は不明。 ○出土遺物は極めて少ない。

○床面は全体にやわらかく、凹凸が多い。

a : 攪 乱 土 層 (ロームブロックを含む) b : 黒 色 土 層 (ロームブロックを少し含む、C

軽石を少し含む)

c :B軽石の純層 (紫灰確認) (C軽石を含む) d:漆黑土層: (C軽石を含む) e :暗褐色土層 (C軽石、焼土粒を含む) f : 茶褐色土層

(C軽石を含む、e層よりも黒色 g :暗褐色土層 土少なくやわらかい)

ア:暗褐色土層 (C軽石を含む、焼土粒を多く含 t:)

(焼土粒、焼土ブロックを多く含 イ:赤褐色土層 む、炭化物を含む)

ア、イ層はカマド部分

※ 30号 住居跡

Oカマドの両袖に、長胴のカメ2分の1程度をふせて 使用し、カメは床面に約40mほど埋め込んで、内側 と外側を粘土で固定してあった。

〇カマドのすぐ南わきの、深さ約6 omのすりばち状に 堀られた所に焼土がほぼ円形状に検出され、その中 央部に、カメの口縁部がさかさに置かれた形で出土 した。

O床面はしっかり固められており、特に柱穴の内側、 カマドの前の部分はしまっていた。

O埋土中に、B軽石の純層が確認でき、この住居跡の すぐ南に検出した大型のピット(No.1)と土層が酷 似することから、この住居跡とピットNo.1とはほぼ 同時期のものと推定される。

a':暗褐色土層(I)

f':暗褐色土層(IV)

i':黄褐色土層

j :黄褐色土層 k :暗褐色土層(V)

(イ層より焼土ブロックを多く含 む、固くしまっている)

(焼土ブロック、炭化物を多く含む)

(焼土粒を多く含む) アーウ層はカマド部分)

(黒色土を主体とする)

(非常にやわらかい)

をわずかに含む)

(黒褐色土に褐色土が班状に混入、

(炭化物、焼土ブロックを多く含

(a層とほぼ同じ、F系軽石をわ

(黒色土中に褐色土がブロックで

(暗褐色土中に褐色土がブロック

(f 層とほぼ同じ、焼土は全く含

(黒色土がブロックでわずかに混

(黄褐色土と黒色土がほぼ均等に

(g層とほぼ同じ、焼土ブロック

で混入、焼土をわずかに含む)

混入、C軽石を少し含む) (a層とほぼ同じ)

C軽石を多く含む)

み、赤色を帯びる)

ずかに含む)

まない)

(黒色土を含む)

入)

混入)

4. 竪穴住居跡からの出土遺物

検出された竪穴住居跡のうち、前項で取り上げた住居跡 9 軒から出土した遺物、及び、それ以外 の住居跡から出土した主な遺物は下表のとおりである。

(1) 出土遺物観察一覧

表 4

住居	遺物番号	器 種	法量(cm)	技 法 等	胎 土	備考
番号	挿 図	土師器	脚口唇部径	脚部外面研磨、内面ナデ	ло <u>т</u>	赤褐色(スス付着)
	図版 1	・高坏	17.5	柱部円孔4個あり	砂粒含有	焼成良
1	挿 図 図 版 125	紡錘車	底 径 2.6 中心径 0.3	滑石製、側面欠けている所あり		750,002
	插 図		器高 9.0	口縁部外面横ナデ	きめ細かい乳白色粒	茶褐色(スス付着)
3	図 版 2	土師器・境	口径 16.4	体部内面横方向のハケメ、外部削り、底部ナデ	含有	焼成良
	挿 図 図 版	石製有孔 円 盤	径 3.7	滑石製、青灰色、中央に径1.5mmの孔が2つある		·
	挿図3	土師器・坩	器高 9.9 口径 10.2	口縁部内面ハケメ、外面横ナデハケメ 体部内面へラナデ、外面削り	きめ細かい乳白色粒 含有	赤褐色(スス付着) 焼成良
9	挿 図 図 版	砥 石	長さ 13.6 + a	三面にわたってよく使いこんでいる	色調は灰白色	
	挿 図 116 図 版	石製有孔 盤	径 2.4	滑石製、青灰色、中央に径2mmの孔が2つある		
			器高 21.2	口縁部内外面横ナデ整形		压损在/思丛娄\
	挿 図 4 回 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数	土師器・甕	口径 16.9	体部内面ナデ、外面へラ整形	砂粒、小石含有	灰褐色(炭付着) 焼成不良
_	IZI NX		底径 4.7	底部外面へラ整形		MCMA-1-12
12	挿 図 5 図 版	土師器・甕	口径 17.0	口縁部内外面横ナデ 体部外面削り	小石含有	茶褐色(スス付着) 焼成良
	插 図		器高 4.0	口縁部内外面横ナデ		茶褐色(スス付着)
	図版	土師器・坏	口径 13.0	底部外面削り	きめ細かい	焼成良
15	挿 図 図 版 114.	石製有孔 円 盤	径 1.9	滑石製、青灰色、中央に径1.5mmの孔が2つある		
			器高 4.6	口縁部外面横ナデ		冰根在(ココ(4学)
	挿 図 7 図 版	土師器・手 づくね土器	口径 7.35	体部内面横ナデ、指頭圧痕あり	砂粒含有	淡褐色(スス付着) 焼成良
17		> \ 1811 H	底径 2.8	底部業脈痕あり		
	挿図8	須恵器・坏	器高 4.2	口縁部内外面横ナデ、体部内面ナデ、外面横ナデ	砂粒、小石含有	黒灰色
	河 版 挿 図 。		口径 12.15	ロクロ右回転、立ち上がりは内傾する		焼成良
18	図版 93	刀 子	長さ 18.4	鉄 製		
	挿 図 図 版 113	勾 玉	長さ 3.1	滑石製、青灰色、径2mmの孔が1つある		
19	挿 図 図 版 128	土製模造品 ・ 丸 玉	直径 2.9	球形、中心に径0.6mmの孔が1つある		赤褐色
29	挿 図 図 版 126	紡錘車	底径 3.9 中心径0.75	斜方向に研磨		
	挿 図	上 6年 88 - 47	器高 3.9	口縁部内外面横ナデ	細かい雲母、乳白色	外面、淡褐色(スス付着)
i	図 版	土師器・坏	口径 11.8	底部内面へラナデ、外面削り	粒含有	内面、赤褐色、焼成良
	挿 図 図 版 11	土師器・甕	口径 22.2	口縁部内外面横ナデ 体部外面削り、内面へラナデ	細かい雲母含有	外面、黄褐色 内面、赤褐色、焼成良
	挿 図	1 47 88 17	器高 3.8	口縁部内外面横ナデ	2 1 6m 1 .	赤褐色
30	図 版	土師器・坏	口径 13.4	底部内面横ナデ、外面削り	きめ細かい	焼成良
99	挿 図 図 版	土師器・婆	口径 25.15	口縁部輪積みの接合痕、指頭圧痕あり	乳白色粒含有	赤褐色
	挿 図 図 版 14	土師器・甕	口径 27.6	口縁部内外面横ナデ 体部内面へラナデ、外面上下方向の削り	雲母、小石含有	黄褐色 焼成不良
	挿 図 197	紡錘車	底径 4.35	滑石製、斜方向に研磨、側面に文字がひっかいて書いてある	、(矢田?)	79000 1 20
	図 版 127 挿 図 106	石製模造品	中心径0.75	清石製、青灰色		
32	凶 版	一人人	中心径 0.3	TRIBACT BUYER		
	挿 図 図 版	石製模造品	径 1.8 中心径 0.4	清石製、青灰色		
32	挿 図 図 版 111	勾 玉	長さ 1.8	滑石製、青灰色、径1.5mmの孔が1つある		
33	·挿 図 112 図 版	勾 玉	長さ 2.5	ヒスイ、青灰色、径3㎜の孔が1つある		
34	挿図 15	土師器	口径 20.05	口縁部外反 な郊ボナ胴 セブち向のヘラ削り痕まり	雲母、石英粒、砂粒	赤褐色焼成良
	河 版 挿 図 0.5		長さ	体部ずん胴、たて方向のヘラ削り痕あり	含有	然以及
36	図版 97	刀 子	16.7+ α	鉄製		

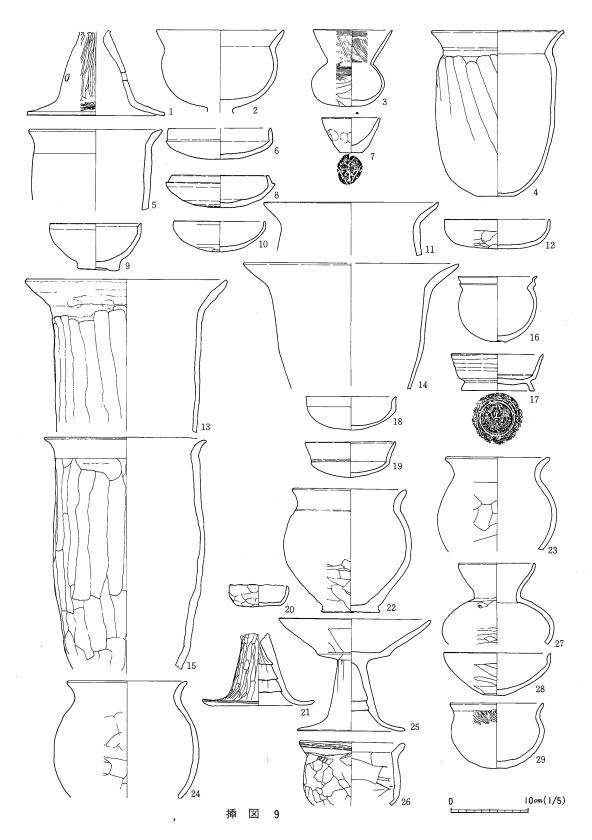
住居番号	遺生	勿番号	器種	法量(cm)	技 法 等	胎 土	備考
	挿	図 .	土師器・	器高 8.4	口縁部内外面横ナデ	細かい	茶褐色(スス付着)
38	図	版 10	小形甕	口径 10.2	体部内面ハケメ、外面削り	乳白色粒含有	焼成良
42		図 1	須恵器・	器高 4.7 口径 11.7	ロクロ使用右回転 底部回転糸切り後高台を付け、周辺部、底部面を調整、中	白色粒、砂粒含有	灰 色
		版	台、付城	底径 8.95	央部外面にヘラ書「山」あり、高台、底部横ナデ		焼成良
		図 版	土師器・坏	器高 4.3 口径 11.6	口縁部内外面横ナデ 底部外面削り、内面横ナデ	きめ細かい 雲母、赤褐色粒含有	淡褐色(スス付着) 焼成良
40		図 1:	土師器・坏	器高 4.6	口縁部内外面横ナデ	砂粒含有	赤褐色
		版		口径 11.4 器高 6.0	底部内面ナデ、外面へラ削り 体部内湾しながらたちあがり、口縁部直立、口唇部でやや		焼成良
50		図 9版	土師器· 台 付 埦	口径 11.6	外反する	砂粒、雲母含有	赤褐色 焼成良
		-	1 47 88 -7	底径 5.0 器高 2.85	底部面へラ削り 粘土巻き上げ		+48 /2
		図 版	土師器・手 づくね土器	口径 7.25	口縁部外面指頭圧痕あり	雲母、乳白色粒含有	赤褐色 焼成良
}	挿	図。	土師器	底径 5.55 脚口唇部	内面底部指頭による一方向のナデ	数工业会士	淡茶褐色
-	図	版 2	・高坏	径 14.3	脚部内面指ナデ、外面縦ナデ研磨に類似	軽石粒含有	焼成良
		図 2:版	2 土師器・甕	器高 15.75 口径 14.1	口縁部内外面横ナデ	黒色粒、乳白色粒含 有	赤褐色(スス付着) 焼成良
				底径 6.75	体部内面ハケナデ	Ti	
		図 2	土師器・甕	口径 13.4	口縁部内外面横ナデ 体部内面へラナデ、外面削り	雲母、乳白色粒含有	赤褐色(スス付着) 焼成良
		⊠ 2·	4 土師器・甕	口径 14.8	口縁部内外面横ナデ	乳白色粒、黒色粒、	赤褐色
-		版		器高 14.25	体部外面へラ削り	砂粒含有	焼成良
5 2	挿	⊠ 2	土 師 器	口径 19.45	坏部内外面横ナデ	雲母、乳白色粒含有	赤褐色
	図	版	´ ・ 高 坏	脚 口唇部 径 13.8	脚部内面横ナデ、柱部外面研磨、裾部外面横ナデ		焼成良
İ		⊠ 2	土師器·	口径 13.1	口縁部内外面横ナデ整形	軽石粒、小石含有	暗褐色
}		図	小が装		体部外面へラ削り ロ縁部内外面横ナデ	黒色粒、乳白色粒	焼成良 赤褐色(スス付着)
		版 2	小形壺	口径 9.6	体部外面削り、肩部ハケメあり	含有	焼成良
	挿	⊠ 2	8 土師器・境	器高 5.4 口径 13.8	口唇部内外面横ナデ	細かい	茶褐色(スス付着)
	図	版		底径 2.75	体部外面削り、内面横ナデ	乳白色粒含有	焼成良
	挿	図 2	9 土師器・塊	器高 8.35 口径 11.8	口縁部内外面横ナデ 頸部指頭圧痕あり	黑色粒、乳白色粒含 	赤褐色(スス付着)
	図	版		底径 2.15	体部内面へラナデ、外面へラ削り	有	焼成良
	挿図	図 3	0 土師器・甕	口径 16.5	口縁部内外面横ナデ 体部内面へラナデ、外面削り	細かい	淡茶褐色(スス付着) 焼成良
	挿	図 3	土 師 器	口径 18.9	坏部内面横ナデ、外面削り	細かい	赤褐色
	<u> </u>	版	• 高 坏	器高 5.65	脚部内面輪積み痕あり、外面ハケメ	雲母、乳白色粒含有	焼成良
53	挿図	図版	2 土師器・境	口径 11.4	口縁部内外面横ナデ 体部内面ナデ、外面削り	細かい 雲母含有	茶褐色(スス付着) 焼成良
	1de	650		底径 3.5 器高 30.0	#547	ひか 御口 アサム	≥k ₩ ₩ ₩ ₩
	挿図	図 3	3 土師器・壺	口径 17.4 底径 6.8	頸部ヘラ削り 体部下半分ヘラ削り	砂粒、雲母、石英含有	淡茶褐色 焼成良
	挿	⊠ ,	4 1.67 10 ***		□ · □ · □ · □ · □ · □ · □ · □ · □ · □ ·	小工会方	淡褐色
55	図	版3	4 土師器·甕	口径 15.0	口縁部折り返し口縁、横ナデ	小石含有 	焼成良
	挿	⊠ <u>≔</u> 3	土師器・	器高 18.85 口径 12.9	口縁部内外面横ナデ 体部外面へラ削り	細かい	赤褐色
56 - 60	図	版	脚付甕	底径 10.2		雲母含有	焼成良
61.62	挿	図.3	6 土師器・坏	器高 2.7	口縁部内外面横ナデ、体部内面ナデ、外面へラ削り 底部面へラ削り、中央部丸いくぼみあり、内面、体部外面	砂粒、黒色粒含有	赤褐色(スス付着)
64	図	版		口径 13.4	墨書「企」あり - 4 つは トス 同転 4 間 2 停ま 2 D		焼成良
(重複)	挿図	図 4	1 土師器・坏	器高 3.6 口径 12.55	ロクロによる回転糸切り痕あり 体部内外面に墨書「 <u>を</u> 」あり、器両面に墨が塗られている	砂粒、小石含有	灰黒色、 焼成良
	挿図	図 11	0 勾 玉	長さ 1.1			
			上師器・手	器高 7.2	口縁部横ナデ		淡褐色(スス付着)
57	挿図	図 5	7 工師器・子 づくね土器	口径 7.2 底径 3.2	はながしてう 体部内面ナデ、外面へラ削り	砂粒含有	焼成良
'				15, II J. 4		 	
	挿	図 ,	土師器・	器高 15.9	口縁部内面横ナデ、外面横ナデの後研磨		赤褐色(スス付着)

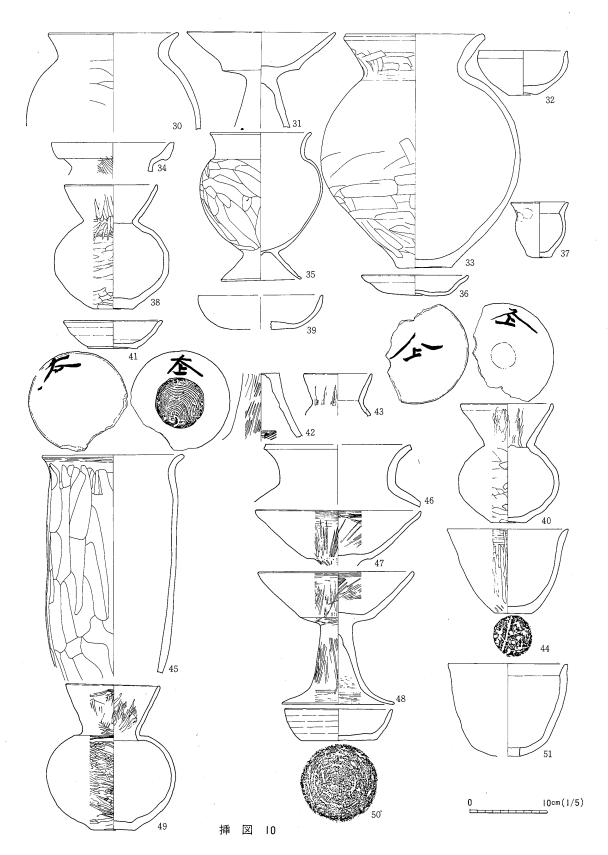
住居 番号	遺	物番号	器 種	法量(cm)	技 法 等	胎 土	備考
番号	挿			器高 4.4	口唇部内外面横ナデ	細かい	淡褐色(スス付着)
	X	版 39	土師器・坏	口径 15.8	底部外面削り	雲母含有	焼成良
	+46-	507	_L 6# 85	器高 15.25	口唇部内外面横ナデ	引力在料 丁甘料会	土地在(ファルギ)
	挿図	図 版	土師器・	口径 11.6	口緣部内外面研磨	「乳白色粒、石英粒含 有	赤褐色(スス付着) 焼成良
				底径 4.35	体部外面削り		
	挿	× 42	土師器・		内面輪積み痕あり	細かい	淡褐色
	図	版	高坏脚部		外面研磨の後ハケメ、裾部ハケメ	雲母含有	焼成良
	挿図	図 版	土師器・坩	口径 8.6	口縁部内外面横ナデ	黑色粒、砂粒含有	赤褐色 焼成良
69	挿	[X]			口縁部内外面横ナデ		淡茶褐色(スス付着)
	図	版 46	土師器・甕	口径 19.0	頸部内面ヘラナデ、外面削り	細かい	焼成良
	挿	⊠ 47	土師器・	器高 5.8	坏部内外面横ナデ削りの上に磨き、内面ナデの上に放射状	細かい	赤褐色
	図	版 47	髙坏(坏部)	口径 21.4	に磨き	雲母含有	焼成良
	挿	図 100	円筒埴輪		内面へラナデ	細かい	赤褐色
	図	放	(小 片)		外面ハケメ、横ナデ		焼成良
i i	挿図	図 版	石製模造品	長さ 5.9	滑石製、青白色、径3㎜の孔が1つある		
	挿	IXI					
	図	版 123	石製模造品	長さ 4.0	滑石製、青白色、径2.5mmの孔が1つある		
63	挿	図 99	砥 石	長さ	三面にわたってよく使いこんでいる	色調は灰色	
	図	放	1445 11	10.5+ α			
66	挿	図 45	土師器・甕	口径 17.5	口縁部内面横方向のハケメ、外面横ナデ	雲母、乳白色粒含有	淡褐色(スス付着)
	図	版	- #U D				焼成良
68	挿図	図 版	土製品・丸玉	直径 3.3	球形、中心に径0.5㎜の孔が1つある		赤褐色 焼成良
	NO.	/VX		器高 10.9	口唇部内外面横ナデ		MIMILE
69	挿	図 44	土師器・	口径 15.6	体部外面削りの後研磨、内面ハケメ	細かい	淡茶褐色(スス付着)
	図	版 1	甑(多孔)	底径 4.3	底部面葉脈痕あり、孔が11個あり	小石、雲母含有	焼成良
				器高 16.9			
	挿		土 師 器	口径 20.0	坏部口縁部内外面横ナデ	細かい	淡茶褐色(スス付着)
72	ा इंद्र	48 u=	・高坏	脚口唇部	体部内面横ナデ研磨、外面削り研磨	雲母含有	焼成良
	図	NX.		径 14.3	脚部内面横ナデ削り、外面研磨		
	+46	107		器高 4.1		81 A A M TO M .	FF 4
74	挿図	版 50	須恵器・坏	口径 13.65	底部切り離し、回転ヘラ切り、周辺部ヘラ調整	乳白色粒、砂粒、小 石含有	灰 色 焼成不良
	IOI	nx.		底径 9.2		· 4 · 6 · 7	MCHA/T-DC
	挿	⊠		径 1.3			
77	図	版 108	石製模造品	中心径 0.3	滑石製、青灰色		
78	挿	⊠ 51	土師器・	器高 11.8	口縁部内外面横ナデ	細かい	赤褐色(スス付着)
'	図	版	甑(単孔)	口径 15.4	体部内面へラナデ、外面削り	小石含有	焼成良
	ı.c.	rea		器高 18.5	_ 62 der 1 = 646 pp pp	ation as to feel, the	No am Ar
	揮図	図 版	土師器・壺	口径 11.7	口縁部内面ヘラナデ後研磨	雲母、乳白色粒、黒 色粒含有	淡褐色 焼成良
1	IAI	NX		底径 5.3	体部外面へラナデ後研磨	巴松古有	が以及
79	挿	⊠	しゃくし形	長さ 18.1 厚さ・円形			赤褐色(部分的に黒色を帯
	× ×	版 52	土製品	0.6	へラによる整形痕あり	砂粒含有	びる)、焼成良
	捕	[V]	石製有孔	把手 1.9			
	挿図	図 版 115	石製有九	径 2.8	滑石製、青灰色、中央に径2㎜の孔が2つある		
				器高 8.4			
81	挿	⊠ 54	土師器・鉢	口径 14.7	折り返し口縁	細かい	赤褐色(スス付着)
	図	版	形甑(単孔)	底径 4.3	体部内面ハケメ、外面削りの後ハケメ	小石含有	焼成良
	挿	×	土師器·		口縁部内外面横ナデ		赤褐色(スス付着)
83	1甲図	55	台 付 埦	口径 11.7	体部内面ハケメ、外面へラ削り	砂粒含有	赤色(ススリカ) 焼成良
-			(塊部のみ)	na -t-	底部円孔1個あり		
84	挿図	図 版	土師器・坏	器高 3.0 口径 12.3	口縁部内外面横ナデ 。	きめ細かい	茶褐色(スス付着)
-	즤	TUX		日住 12.3 器高 15.15	底部内面横ナデ、外面削り、内面に墨書「太」あり □縁部内外面横ナデ		焼成良
86	挿	⊠ ≡ 56	土師器·	一番尚 15.15 口径 11.0	同部研磨斜め方向	黒色粒。石英含有	赤褐色(スス付着)
~~	図	版	小 形 壺	底径 5.05	体部研磨横方向		焼成良
	h-r.	ECOM .	土 師 器		脚部内面輪積み痕あり		+48 (2 / -> -> / 1.04)
1	挿回	57	・高坏	脚口唇部	柱部外面研磨痕あり	砂粒、石英粒含有	赤褐色(スス付着)
	図	NX	(脚部のみ)	径 18.9	裾部稜段あり		焼成良
94	挿	109	管 玉	長さ 2.5	碧玉製、緑色		
<u> </u>	図	版 103		径 0.5			
	挿	Z	上新型. 44	器高 7.2	口縁盛内面土デー以面ハケナデ	里布約 万世约今七	淡褐色(スス付着)
96	図	58	土師器・埦	口径 8.9 底径 4.5	口縁部内面ナデ、外面ハケナデ	黒色粒、石英粒含有 	焼成良
L	L		<u> </u>	154 E 4.J	<u> </u>		

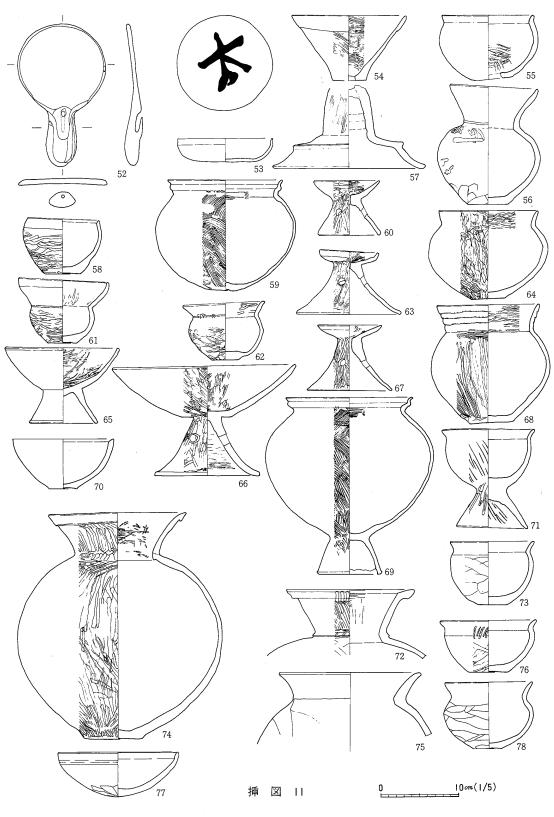
住居 番号	遺物	勿番号		器種	法量(cm)	技 法 等	胎 土	備考
		図 5版	9	土師器・埦	器高 14.25 口径 14.55 底径 3.5	S字状口縁、全体にハケメ 口縁部内外面機ナデ 体部内面へラナデ、外面ハケメ	乳白色粒、砂粒含有	淡褐色(スス付着) 焼成良
į		図 版	0	土 師 器 · 器 台	器高 7.0 口径 8.1 底径 7.55	脚部円孔3個あり	雲母、乳白色粒含有	褐色(坏部内面黑色) 燒成良
		図 6	1	土師器・坩	器高 8.3 口径 11.2 底径 3.6	口縁部外面横ナデ 体部外面ナデ後研磨 底面研磨痕あり	小石、石英粒含有	淡褐色(スス付着) 焼成良
	挿図	図 6	52	土師器・埦	器高 7.5 口径 10.0 底径 3.15	顕部↓方向の削り? 底部内面ナデ後研磨、外面、周辺部へラ削り後研磨	砂粒含有	赤褐色(スス付着) 焼成良
	挿図	図 6	i3	土師器	器高 8.25 口径 7.3 底径 13.1	受け部ハケナデ 脚部内面ハケナデ	雲母、石英粒、黒色 粒含有	赤褐色焼成良
	押	図 6	4	土 師 器・ 甕 形土 器	器高 11.25 口径 12.35 底径 4.4	口縁部体部外面横ナデ後ハケ(?)後研磨 肩部内面ヘラナデ研磨 底部外面ヘラ削り後研磨?	砂粒、雲母、石英粒 含有	淡茶褐色 焼成良
	挿図	図版	5	土 師 器・高 坏	器高 9.6 口径 14.0 底径 8.2	外面全面機ハケナデ 脚部内面横ナデ	石英粒、乳白色粒含 有	赤褐色(スス付着) 焼成良
	挿図	図 6	6	土 師 器・高 坏	器高 14.1 口径 23.0 底径 13.2	坏部内外面ヘラナデ 脚部外面ヘラナデ、円孔3個あり	雲母、石英粒含有	淡褐色 焼成良
96		図 6	17	土 師 器・器 台	器高 8.35 口径 7.9 脚口唇部 径 10.6	脚部円孔 3 個あり	雲母、石英粒、乳白 色粒含有	淡褐色(スス付着) 焼成良
		図 6	8	土師器・甕	器高 15.25 口径 12.8 底径 5.5	口縁部内外面機ナデ 底部面研磨痕あり	砂粒、石英粒含有	赤褐色(スス付着) 焼成良
		図 6	9	土師器・ 脚 付 饔	器高 22.7 口径 16.05 底径 7.45	口禄部内外面横ナデ 体部外面ハケメ	砂粒含有	淡茶褐色(スス付着) 焼成良
		図 7	4	土師器・壺	器高 29.2 口径 17.4 底径 7.4	口縁部折り返し口縁、第1次整形ハケナデ 頸部体部第1次整形ハケナデ	小石、砂粒含有	淡黄褐色 焼成良
	挿図	図 7版	9	土師器・壺	器高 31.8 口径 18.2 底径 8.6	ロ唇部内外面横ナデ、口縁部内面横ナデ、外面ナデ 頸部内面研磨、外面縦ナデ研磨、体部内面ナデ指頭圧痕あ り、底部木の葉痕あり	軽石粒、小石粒、砂 粒含有	炭化米あり、体部外面淡黄 褐色、部分的に黒斑あり 焼成良
		図 8	80	土師器・壺	器高 29.0 口径 20.0 底径 8.8	ロ唇部横ナデ ロ縁部胴部内外面ハケメ後へラ磨き	砂粒含有	炭化米あり 淡黄褐色、内面黒色 焼成良
	挿図	図 8	31	土師器・壺	器高 34.6 口径 16.8 底径 7.0	ロ督部ナデ後研磨、口縁部外面指頭圧痕あり、ハケ調整後 研磨、頸部指頭圧痕あり、ハケ調整、体部内面横ハゲナデ 外面ハケ調整後研磨、底部削り後研磨、周辺部削りに類似 する研磨	小石、砂粒含有	淡黄褐色 胴下半部に炭化物付着 焼成良
	挿図	図 8	32	土師器・壺	器高 29.8 口径 13.0 底径 9.0	体部内面横ナデ、斜めハケメ、 外面第1次整形、横斜めハケメ後研磨	軽石粒、小石、砂粒 含有	体部外面淡黄褐色 部分的に黒斑あり 内面スス付着、焼成良
ļ		図 8	34	土師器・壺 (大 型)	器高 64 口径 23.6 底径 18.8	口縁部上段外面ハケ後横研磨、下段研磨に近い削り、指頭 圧痕あり、体部ハケ後研磨 底部立ち上がりの周辺部研磨に近い削り	砂粒含有	淡茶褐色 焼成良
98		図 7版	72	土師器・甕	口径 16.4	口縁部内面ハケメ後研磨、外面ハケメ 肩部内面へラナデ、外面ハケメ後研磨	きめ細かい 雲母含有	赤褐色(スス付着) 焼成良
100		図 7	0	土師器・埦	器高 6.4 口径 13.0 底径 3.55	口縁部内外面横ナデ 体部内面へラナデ、外面削り	細かい、雲母、石英 粒、小石含有	茶褐色焼成良
101	挿図	図 版	9	石製模造品	長さ 7.15	滑石製、青白色、径2mmの孔が1つある		
	挿図	版 12	_	石製模造品	長さ 3.7	滑石製、青白色、径 3 mmの孔が 1 つある		
107	挿図	版 12		石製有孔 円 盤	径 3.8	滑石製、青灰色、中央に径2mmの孔が1つある		
111	挿	図 7版	/1	土師器・ 台 付 埦	器高 12.7 口径 11.75 底径 9.05	口縁部内外面横ナデ 体部内面ナデ、外面ハケメ 台部内面ハケメ、外面削り	乳白色粒、石英粒含 有	赤褐色(スス付着) 焼成良

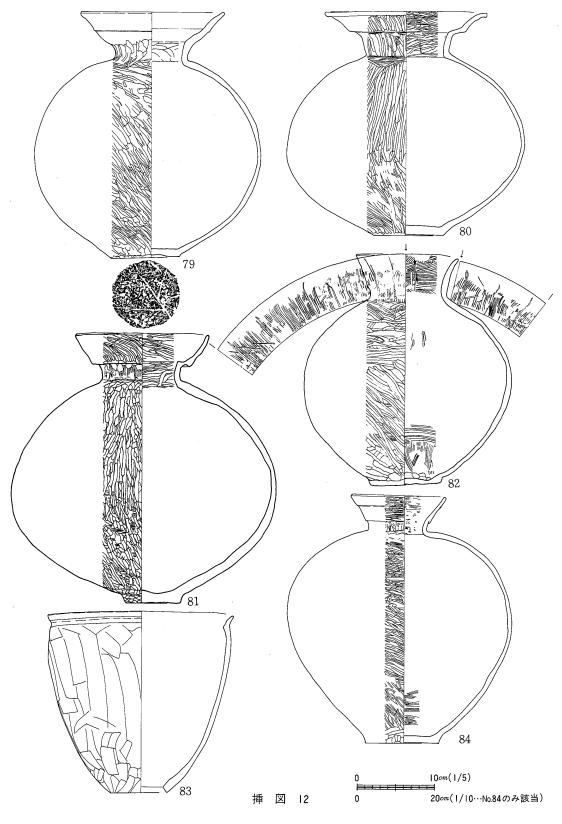
住居	遺物番号	器種	法量(cm)	技 法 等	胎 土	備考
113	挿 図 117	石製有孔	径 2.1	滑石製、青灰色、中央に径3㎜の孔が2つある		
	図 版 17 挿 図 73 図 版	土師器・埦	器高 8.1 口径 10.5 底径 3.55	口縁部内外面横ナデ	乳白色粒含有	赤褐色(スス付着) 焼成良
	挿 図 図 版 75	土師器・甕	口径 17.5	口縁部横ナデ	細かい 雲母、乳白色粒含有	淡褐色(スス付着) 焼成良
	挿 図 76 図 版	土師器・埦	器高 6.65 口径 12.05 底径 5.0	ロ縁部内外面機ナデ、外面へラ削り 体部外面へラ削り	雲母、乳白色粒含有	赤褐色(スス付着) 焼成良
	挿 図 77 図 版	土師器・坏	器高 5.7 口径 15.0	口縁部外面横ナデ、体部外面上半ハケナデの後指ナデ?下 半へラ削り、底部へラ削り	雲母、砂粒、石英粒 含有	淡茶褐色 焼成良
	挿 図 78 図 版	土師器· 小 形 甕	器高 8.5 口径 11.2 底径 3.5	口縁部内外面横ナデ 体部外面へラ削り	きめ細かい 雲母、石英粒含有	赤褐色
•	挿 図 図 版 83	土 師 器・ 甑 (単 孔)	器高 23.3 口径 23.4 底径 7.1	口縁部内面横ナデ、外面ナデ 体部内面ハケナデ、外面ハケナデ、下位へラ削り	雲母、砂粒、石英粒 含有	茶褐色 焼成良
116	挿 図 85 図 版	土 師 器・高 坏	器高 15.05 口径 18.7 脚口唇部	坏部内面ナデ後放射状暗文、口縁部外面ナデ 体部外面へラ削り後指ナデ? 底部外面へラ削り	雲母、砂粒、石英粒 含有	赤褐色(脚部黑色) 焼成良
	挿 図 86 図 版	土 師 器	程 14.1 器高 16.1 口径 20.05 脚口唇部	脚部内面へラナデ、外面研磨模ナデ 环部上半内外面横ナデ、下半内面研磨 脚部外面側的 柱部内面側り	乳白色粒、黒色粒含有	赤褐色(スス付着) 焼成良
ļ	挿 図 図 版	土 師 器	径 13.85 器高 15.5 口径 17.6 底径 13.65	掘部内面機ナデ 坏部内面機ナデ後研磨、外面機ナデ 脚部内面横ナデ、円孔1個あり	黒雲母、乳白色粒含· 有	赤褐色(スス付着) 焼成良
	挿 図 図 版	土師器・壺	底径 4.2	体部外面へラ削り	雲母、乳白色粒含有	赤褐色(スス付着) 焼成良
	挿 図 図 版	土師器・甕	器高 16.2 口径 13.9	口縁部内外面横ナデ 体部内面へラナデ、外面へラ削り	砂粒、小石含有	赤褐色(スス付着) 焼成良
	挿 図 図 版	土師器・婆	口径 15.7	口縁部内外面横ナデ、頸部指頭圧痕あり 体部内面へラナデ、外面へラ削り	雲母、砂粒、石英粒 軽石粒(?)含有	茶 色 焼成良
	挿 図 120	石製模造品	長さ 10.5	滑石製、茶褐色、径2mm の孔が1つある		
	挿 図 91 図 版	土師器・鉢	器高 4.65 口径 10.15 底径 4.3	輪積み痕あり、口唇部へラ調整により整形 体部内外面ハケメ後研磨 底部面切り離し後周辺部研磨	砂粒含有	赤褐色(スス付着) 焼成良
117	挿 図 92 図 版	土 師 器	器高 10.9 口径 15.9 脚口唇部 径 8.9	坏部口唇部内面横ナデ研磨、外面横ナデ 脚部内面横ナデ、外面研磨	砂粒、小石粒含有	淡茶褐色 焼成良
	挿 図 図 版 101	弥 生	体部外面筋制	犬の線文様、縄目の文様あり、一部に朱が残る	細かい 砂粒含有	淡茶褐色(スス付着) 焼成良
	挿 図 図 版 102	弥 生	体部外面筋制	犬の線文様あり、所々に朱が残る	細かい 砂粒含有	淡茶褐色 焼成良
(122)	挿 図 103 図 版 103			文をナデによりすり消し、ヘラガキ条痕文あり 	細かい 砂粒、小石粒含有	茶褐色 焼成良
	挿 図 105 図 版	土師器・手づくね土器	器高 4.4 口径 3.3	口縁部体部指頭圧痕あり	茶褐色粒、黒褐色粒含有	茶褐色(スス付着) 焼成良
	挿 図 130 図 版	弥 生	口唇部繩文	ちり、径3mmの孔が2つある	細かい 砂粒含有 細かい	淡茶褐色(スス付着) 焼成良 茶褐色
	挿 図 131 図 版	弥 生		犬の線文様あり 	州石含有	焼成良
126	挿 図 95 図 版	須恵器・短 頸 壺	器高 6.7 口径 7.75 底径 8.15	底部切り離し、回転糸切り、中央くぼみあり	きめ細かい	白灰色(鉄分がほぼ全面に 付着) 焼成良
	挿 図 図 版	土師器・甕	器高 27.9 口径 21.3 底径 3.2	口縁部内外面横ナデ 体部内面へラナデ、外面削り	細かい 小石含有	赤褐色(スス付着) 焼成不良
井戸 1	挿 図 図 版 94	土師器・坏	器高 3.25 口径 12.1	ロ縁部内外面横ナデ、体部内面横ナデ、外面削り 底部内面に墨書「尺」あり	きめ細かい	茶褐色(スス付着) 焼成良
	挿 図	縄文・尖底 土器 (胴		羽状縄文あり	細かい	淡茶褐色(スス付着)

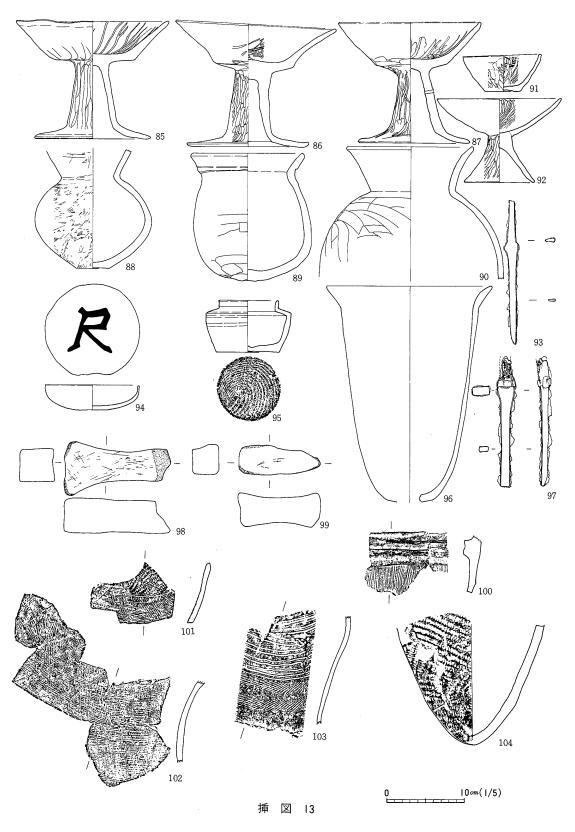
[※] 住居番号〇印は、抽出した住居跡。

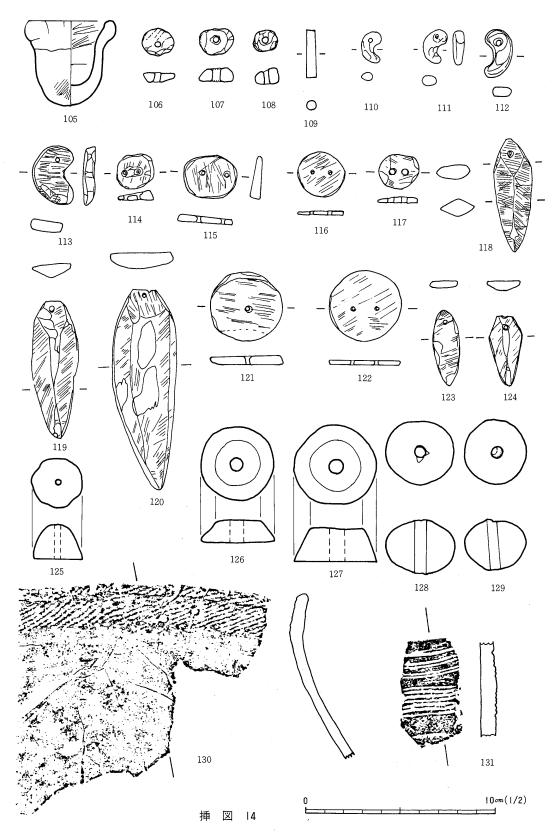












(2) 96号住居跡出土の炭化遺物

96号住居跡北側より出土した壺 (No.79, 80) 内の炭化遺物について分折した結果、次のような結 果を得た。

a. 調査方法

篩 別…縦目篩により、1.8mm以上1mm間隔によって焼玄米及び炭化物を土から分離し、各厚さ 別の粒数ならびに重量を測定した。

b. 調査結果

(ア) 壺内炭化物の成分

土 (火山灰性砂質黒ボク土) 220g (水分含量36%) = 乾土140.8 g

炭化物

17.5g (乾物) / 乾土140.8g

(イ) 縦目篩による1分間振動篩別結果

表 5

厚	8	粒	数	重	量	備	考
2.4mml	上	904粒		7.2	g		
2.2mml	上	625粒		4.2	g		2201粒
2.1mml	上	276粒		1.8	g		15.2 g
2.0mm	上	396粒		2.0	g	}	
1.9mml	上	226粒		1.1	g		511粒
1.8mml	上	285粒		1.2	g	J	2.3g
1.8mm	大下	(土壤)					

(ウ) 焼玄米の厚さ別の長さ、幅の測定結果

厚さ2.4mm以上

(単位mm) 表 6

長さ	4.5	4.5	5.0	4.8	5.5	5.7	5.0	4.5	5.0	4.8	5.7	4.7	4.7	4.3	5.5	4.3	4.4	4.5	4.6	5.0
幅	2.5	2.7	2.3	3.0	3.0	2.5	2.7	2.8	3.0	2.5	2.3	2.6	2.5	2.3	2.3	2.8	2.5	2.3	2.3	2.5
長さ/幅	1.8	1.7	2.2	1.6	1.8	2.3	1.9	1.6	1.7	1.9	2.5	1.8	1.9	1.9	2.4	1.5	1.8	2.0	2.0	2.0

厚さ2.2mm以上

長さ	5.0	4.8	5.3	5.0	4.3	5.0	4.3	5.5	4.5	4.8	5.0	4.5	5.5	4.7	4.5	4.8	5.2	4.5	4.8	5.0
幅	2.6	3.0	2.3	2.2	2.0	2.6	2.3	2.5	2.5	2.5	2.6	2.3	2.3	2.4	2.3	2.8	2.6	2.4	3.0	3.0
長さ/幅	1.9	1.6	2.3	2.3	2.2	1.9	1.9	2.2	1.8	1.9	1.9	2.0	2.4	2.0	2.0	1.7	2.0	1.9	1.6	1.7

厚さ2.1mm以上

長さ	4.8	4.6	4.0	4.8	5.0	4.2	4.5	4.5	4.7	4.5	5.0	4.5	4.6	4.7	4.2	4.8	4.5	4.5	4.6	4.3
幅	2.3	2.2	2.5	2.5	2.5	2.5	2.2	2.5	2.5	2.5	2.5	2.2	2.2	2.5	2.0	2.6	2.6	2.3	2.3	2.8
長さ/幅	2.1	2.1	1.6	1.9	2.0	1.7	2.0	1.8	1.9	1.8	2.0	2.0	2.1	1.9	2.1	1.8	1.7	2.0	2.0	1.5

厚さ2.0mm以上

長さ	5.3	4.5	4.3	4.0	4.3	4.8	4.0	4.5	4.3	4.7	4.3	4.8	4.5	4.3	5.0	4.5	4.5	4.8	4.5	4.4
幅	2.3	2.5	2.2	2.5	2.2	2.5	2.3	2.7	2.5	2.5	2.5	2.5	2.3	2.3	2.7	2.3	2.3	2.6	2.3	2.5
長さ/幅	2.3	1.8	2.0	1.6	2.0	1.9	1.7	1.7	1.7	1.9	1.7	1.9	2.0	1.9	1.9	2.0	2.0	1.8	2.0	1.8

厚さ2.0mm以下

長さ	2.3	2.5	2.5	2.7	2.7	2.6	2.5	2.7	2.2	2.8	2.3	2.0	2.2	2.5	2.4	2.7	2.5	2.5	2.0	2.4
幅	1.8	2.0	2.3	2.0	2.0	2.0	1.8	2.0	1.8	2.2	2.2	1.8	1.6	1.8	1.7	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
長さ/幅	1.3	1.3	1.1	1.4	1.4	1.3	1.4	1.4	1.2	1.3	1.0	1.1	1.4	1.4	1.4	1.4	1.3	1.3	1.0	1.2

(エ) 焼玄米の長さ、幅比調査

(単位mm) 表 7

厚さ	長さ	幅	長さ/幅
2.4mm以上	4.85	2.57	1.89
2.2mm以上	4.85	2.51	1.93
2.1mm以上	4.57	2.41	1.89

厚っさ	3	長	8	幅	長さ/幅	
2.0mm以_	Ŀ	4.	51	2.43	1.86	
1.9mm以_	Ŀ.	2.4	45	1.96	1.26	1
1.8mm以_	Ŀ.	J				

(オ) 焼玄米の長さ、幅比の分布

()内は% 表8

長さ/幅 粒厚	2.5	2.4	2.3	2.2	2.1	2.0	1.9	1.8	1.7	1.6	1.5	計
2.4mm以上	4.5	4.5 (5)	4.5	4.5	— (—)	13.5 (15)	18.0	18.0 (20)	9.0 (10)	9.0 (10)	4.5 (5)	90.0 (100)
2.2mm以上	- (-)	3.1 (5)	6.2 (10)	6.2 (10)	— (—)	12.4 (20)	18.6 (30)	3.1 (5)	6.2 (10)	6.2 (10)	— (—)	62.0 (100)
2.1㎜以上	(—)	(—)	— (—)	(-)	5.6 (20)	8.4 (30)	4.2 (15)	4.2 (15)	2.8 (10)	1.4	1.4	28.0 (100)
2.0㎜以上	(-)	(—)	2.0 (5)	— (—)	— (—)	12.0 (30)	10.0 (25)	6.0 (15)	8.0 (20)	2.0 (5)	(—)	40.0 (100)
計	4.5 (2.0)	7.6 (3.5)	12.7 (5.8)	10.7 (4.9)	5.6 (2.5)	46.3 (21.0)	50.8 (23.1)	31.3 (14.2)	26.0 (11.8)	18.6 (8.5)	5.9 (2.7)	220.0 (100)

長さ/幅=2.2以上の玄米の平均

長さ=5.3mm 幅=2.3mm 長さ/幅=2.30

長さ/幅=2.1以下の玄米の平均

長さ=4.6mm

幅=2.5mm 長さ/幅=1.84

長さ2.0mm未満の種子511粒の平均

長さ=2.45mm

幅=1.96mm

長さ/幅=1.26

〈参考資料〉

玄米の特徴

(単位mm) 表 9

	改	良水	稲	在	来水	稲	在来	陸 稲	陸稲
	日本晴	トヨニシキ	コシヒカリ	亀治	坊 主	選一	浦三1号	早生江曽島糯	赤稲
長き	5.1	5.0	5.2	5.2	5.3	4.9	6.0	5.7	6.2
幅	2.7	2.8	2.8	3.1	2.9	2.8	3.2	3.1	2.5
長さ/幅	1.9	1.8	1.9	1.7	1.8	1.8	1.8	1.9	2.5

ヒエ種子 長さ=2~3mm、幅=1.5~2.5mm

c. 考 察

(ア) 焼玄米について

焼玄米には、細長いインディカ型と短いジャポニカ型がみられる。インディカ型の頻度は16.2%である。また、曲玉型の登熟不良米が多数みられ、焼ける前に砕けたと思われる砕米も混入している。さらに、玄米の縦溝が深く、小麦と見まちがうほどのものもある。これは、栽培方法、気象条件などにより十分な登熟を果すことができなかったことを示している。

インディカ型の細長い玄米については、この地域にインディカ型が栽培されていたことを示すものではなく、トウボウシなどと言われる野生の赤米が雑草として生えていたことを示すものと思われる。

玄米の長さは平均4.6mmで、幅も平均2.5mmであり、現在の品種としては極く小粒種に属し、在来 品種の選一などよりも小粒である。このことは、一つには、登熟不良や生長期間の肥料不足、また、 頴花、籾穀の発育する時期の栄養不足により籾が小さいために玄米も小さくなったこともあり得る が、小粒種としての遺伝性の方が大きかったものと考えられる。

(イ) 玄米以外の種子について

形態、大きさなどから、ヒエ種子である可能性が最も高い。アワ、キビなどにしては、粒形、大きさが必ずしも一致しない。

このように、ヒエ種子が多量に玄米と混在していたことは、当時、ヒエも栽培して、米と同時に 食糧に供していたことを示すものと考えられる。

(ウ) 混入土について

壺内に混入していた土は、腐植に富む火山灰砂質 黒ボク土である。

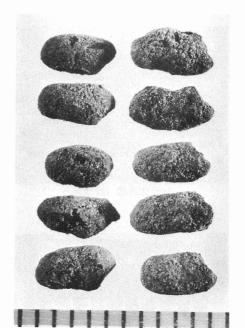
d. 関連事項

炭化米の出土例は、群馬県内では高崎市の日高 遺跡や新保遺跡などにみることができる。なお時 代は下るが、栃木県佐野市の唐沢城跡から出土し た焼米に長粒から短粒までが発見されており、そ の長粒は赤米と推定されている。その他、多くの 出土した焼米には長粒が混入している場合が多い。

長粒の赤米は味が悪く少収で、脱粒性も高いので、稲作の雑草として取り扱われ、明治時代以後になって除去、撲滅させられたものが多い。かつての朝鮮では極めて多量に発生している。

〈参考文献〉

日本古代稲作史研究 1959年 安藤広太郎著稲の日本史 盛永俊太郎著 日本の稲 1957年 盛永俊太郎著



図版 2 炭化米 (| 目盛 = | mm)

図版 3



B区遠景(南より望む)



繩文時代のピット(59号住居跡北側に重複)



122号住居跡(弥生土器伴出)



59号住居跡(大型住居)



96号住居跡(炭火米出土)



53号住居跡(2柱穴あり)



52号住居跡東南隅(遺物出土状態)



52号住居跡(西に張り出しあり)

図版 4



116号住居跡西南隅ピット内(遺物出土状態)



116号住居跡(火災住居)



しゃくし形の土製品出土状態(79号住居跡内)



47号住居跡(拡張住居)



12号住居跡のカマド



12号住居跡(カマドに石使用)

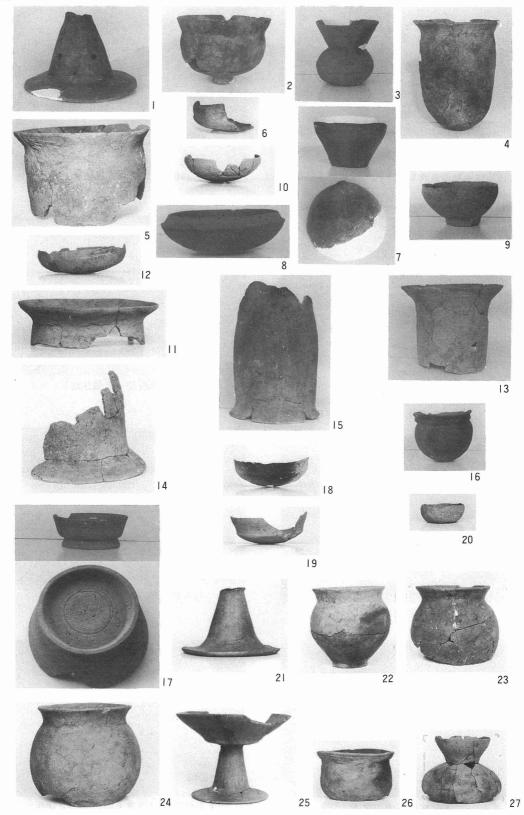


30号住居跡のカマド

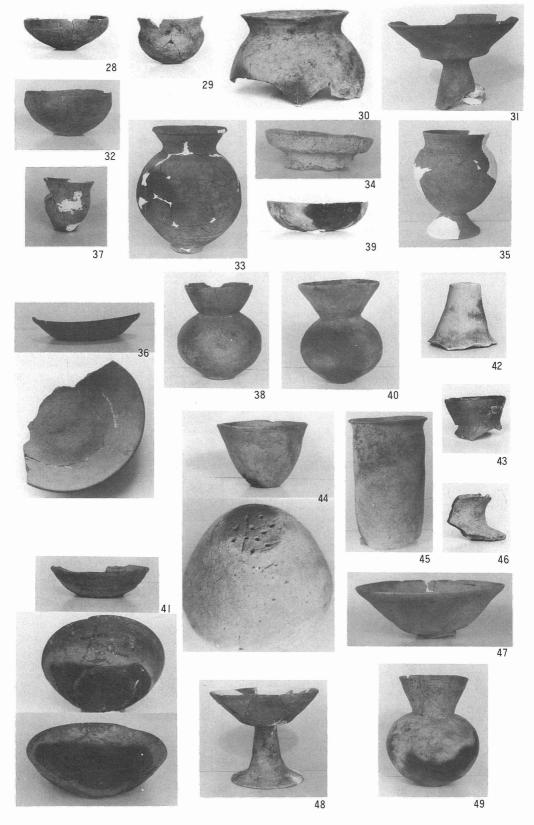


30号住居跡 (カマドの袖にカメ使用)

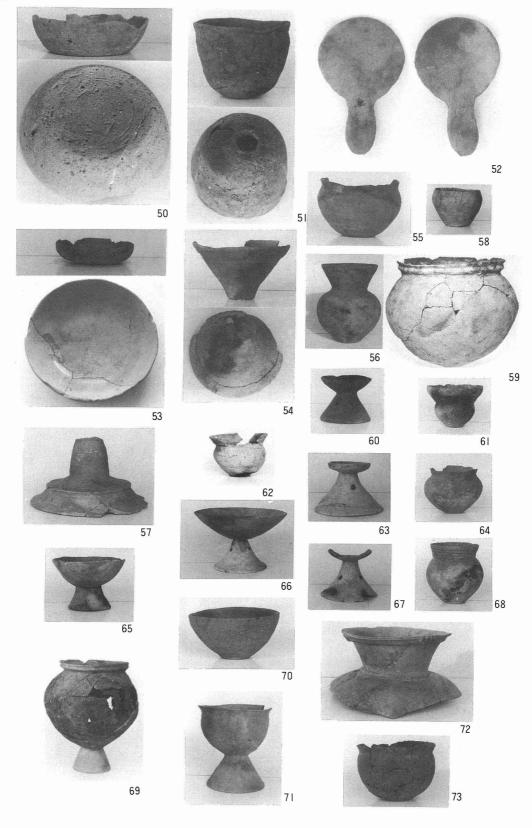
図版 5



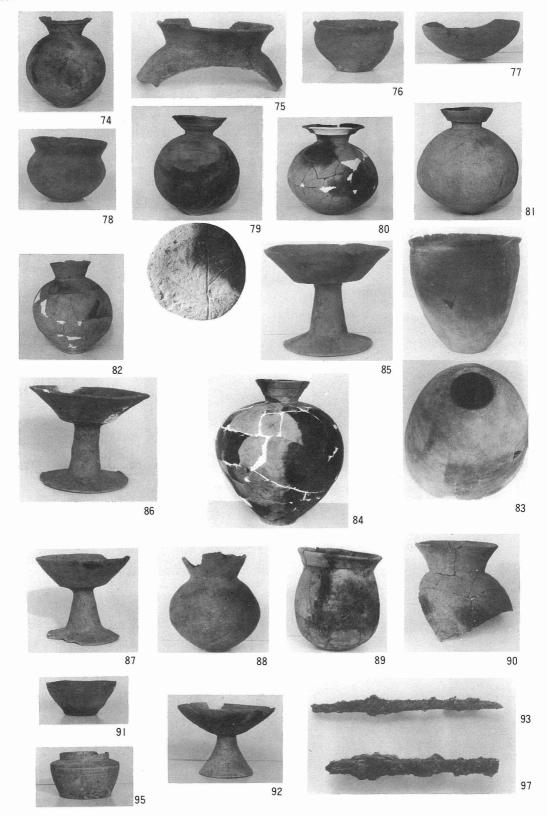
図版 6



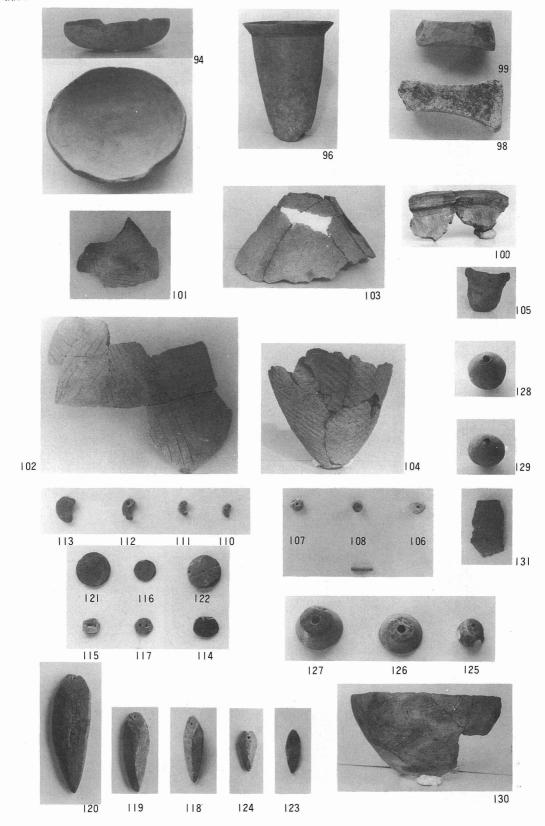
図版 7



図版 8



図版 9



5. 女堀遺構

国道50号線に取りつく進入道路部分に女堀遺構がかかるため、調査を行った。

調査区域は現在水田として使用されており、また、削平を受けていることから立面的には女堀遺構としてとらえることができなかった。しかし、西側には女堀を一部転用したと思われる鶴ヶ谷沼があり、東側には約150mほど隔てて土手状遺構が残っており、かかる状況から女堀遺構の範囲を推定しした。

水田地ということ、台地状地形の先端に位置することなど、当初から湧水が心配されたため比較的雨量の増加する梅雨の前、すなわち4月下旬に調査期間を選んだ。調査はトレンチ内での処理を原則とし、バック・フォーによる掘削を行った。その結果、激しい湧水のため底部確認は困難であったが、そういった状況の中で、大旨次のようなことが明らかとなった。

- ①女堀の幅は上端でおよそ21mを測る。
- ②女堀の開穿時期はB軽石堆積後であることが地層観察により明らかとなったが、さらに細かな年 代観についてはB軽石直上付近まで耕作が及んでいるため明確にはし得なかった。
- ③現在、鶴ケ谷沼以東より宮川以西まで、東西に細長い畦畔が続いているが、これがほぼ女堀の南 北幅に相当することが判明した。特に今回の調査区域では、女塀遺構の北の立ちあがりと現水田 の北畦畔が同一である調査結果を得ることができた。

図版10 女堀遺構



遠景(西より望む)



南立ちあがり(平面)



南立ちあがり(地層断面)

6. 古墓・集石遺構

B区において合計20基の古墓が検出された。

遺構は南へ緩やかに傾斜する面上に、東西12m、南北3mの範囲で確認されたもので、そのうち、1号墓・2号墓は骨蔵器を伴っていた。いずれも墓域を示すと考えられる石組等は明確にとらえられなかったが、近接して4基の集石遺構が確認されたこと、および古墓群直上で若干の川原石・山石が検出されたことから、古墓構築当時において何らかの形で石組が存在したことが推定された。各遺構の概要は次表に示すとおりである。

古墓一覧

(単位 cm) 表10

		墓		£	遺物	骨	備考
	掘り方プラン	掘り方セ クション	埋 土	規模	坦 170	月	畑
1	円 形	$ \searrow $	褐 色 土	径 50 深 20	骨蔵器	0	骨蔵器の大きさに比して、掘り方が大きめに掘られて いた
2	正円形	7	褐 色 土	径 40 深 30	骨蔵器	0	掘り方内の側面三方、及び底部に扁平な川原石が据えられ 骨蔵器にも蓋石として川原石(ø25)が置かれていた
3	不整円形	\		最大径55 深 15		0	
4	円 形	7~		径 140 深 35	古銭2	0	明確な石組は認められなかったが、掘り方プランを覆 うように石が数個置かれていた
5	楕円形	>		最大径40 深 15		×	
6				径 40 (推定)		0	遺構面が浅く、明確な掘り方は得られなかった
7	正円形	5		径 30 深 20		0	
8	楕円形	5.		最大径60+α 深 10		0	古墓9と重複
9	楕円形	\		最大径65 深 30		0	古墓8と重複 新旧関係は不明
10				径 30		0	臺 壙の規模は骨片の散布範囲による
11	椿円形	7_5	上層·暗褐色土 下層·黒 色 土	最大径70 深 40		0	角閃石安山岩の塔婆立をもつ
12	円 形			径 25 深 10		0	古墓15と重複
13	楕円形	\sim		最大径95 深 30		0	
14	楕円形	~		最大径50 深 15		0	
15	円 形			径 25 深 10		0	古墓12と重複 新旧関係は不明
16	円 形			径 30		0	
17	不整円形	~	黒 色 土	最大径50 深 20		0	埋土の黒色土中には、下位から上位まで扁平な川原石 が多数混入していた
18		~	上層·暗褐色土 下層·褐 色 土	深 40		0	古墓20と重複
19	円 形	~		径 30 深 15		0	
20		~				0	古墓18と重複 古墓18 → 古墓20





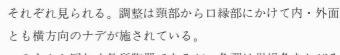


図 15 骨蔵器実測図



なお、前述した骨蔵器の 他に、古銭、板碑等が出土 している。

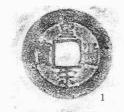
O 骨蔵器(挿図15、図版11) 1は赤味の淡褐色を呈す る、所謂軟質陶器である。 胴部中位から下位にかけて は縦方向のヘラ削りが、上 位には横方向のヘラ削りが



2も1と同じく軟質陶器であるが、色調は黒褐色をおびる。 焼成は比較的良好であるが、肩部から胴部中位にかけて燻し が顕著である。胎土中には雲母粒、石英粒を初めとして多量 の砂質分を含む。器面は胴部を中心として凍てによる荒れが

目立つが、胴部下位に縦方向のヘラ削りが確認される。底部切り離しは静止糸切りによるが、周辺 部にはヘラ調整が施される。

前橋市周辺では、富田古墓群、大胡町茂木古墓群、境町妥女古墓等の中世墓が報告されているが、 これらの古墓から出土した骨蔵器と比較したとき、特に富田古墓群との類似性を指摘することがで





きる。富田古墓群では古墓築造の年代を遺物等から1300年代と見ており、 本遺跡出土の骨蔵器もこの時期のものとしてとらえておきたい。

O古銭 (挿図16)

4号墓より、2枚の北宋銭が出土している。1は皇宋通寳(字順・★) と読め、径2.4cm重さ3.2gを測る(初鋳年代・1039年)。2は熙寧元寶 (字順·ペン)であり、径2.3cm重さ3.5gを測る(初鋳年代・1068年)。いず れも、六道思想に基く副葬品として埋納されたものであろうか。

Ⅲまとめ

本調査対象地の調査前の状況は、大部分が開墾によって桑畑や畑となり、女堀跡だけが畔として残りその範囲をほぼ現在に伝えているのみであった。しかし、今回の発掘調査によって、本遺跡地は古代から中世に及ぶ遺構・遺物を有する複合遺跡であることがわかり、次のような成果を収めることができた。

- 1. 縄文時代の遺物を伴う遺構は検出されなかったが、埋土の様子から縄文期のものと推定される ピットが西側丘陵地(A区)から1基検出された。また、遺物の地表採集調査では、東側丘陵地 (B区)に縄文土器の散布が比較的多く、その中に縄文早期に比定される土器片も認められるこ とから、約7000年前の生活を跡づける資料を得ることができた。
- 2. 弥生土器を伴出する住居跡、及び、遺物は伴わなかったがそれに類似した形態をもつ住居跡を B区から検出した。これは、本遺跡地のみにとどまらず、発見報告のある西大室、富田地区とと もに弥生期末期の生活範囲を考えるための資料となりうるものである。
- 3. 古墳時代にかかわる遺構について
 - (1) A区全面から検出された竪穴住居跡120軒の内、92軒が古墳時代のものと推定された。土器の 観察から、石田川期→和泉期→鬼高期と間断なく続くことがわかり、特に鬼高期に至って急激 に軒数が増加することが判明した。これは、集落の形成を考える上で欠かせない資料であり、 同時に、各時期の住居の規模や形の変化、炉からカマドへの移り変わり、生活用具の変化など を知る上で貴重な資料になると考えられる。
 - (2) 火災によって廃棄されたと考えられる96号住居跡の検出によって、当時の食糧形態の一端や 収獲された米の貯蔵形態及び一住居内で使用された土器の種類や数などを知る上で貴重な資料 を得た。なお、この焼玄米の検出とA・B区に狭まれた谷地の地形とを考え合わせると、ここ に谷地田を中心とした水田址の存在が推定できる。
- 4. 奈良・平安時代にかかわる遺構は、竪穴住居跡がA区から28軒、B区から6軒検出されたほか、生活・生産に関係するピットや溝、井戸跡も検出された。特に竪穴住居跡は、第1年次調査地の発掘区北部で顕著に見られたと同様、東南の微傾斜地に集中して造られている傾向を示す資料を得ることができた。これは前年のデータと合わせて、地形と居住との関係を考える上で貴重な資料になると思われる。
- 5. 中世期と推定される墓跡群が板碑・古銭を伴ってB区中央部から検出された。これは14世紀代と推定され、南北朝から室町初期の信仰の一端を知る上で貴重な資料である。特に、この時期と考えられる浄土門の前橋東部への浸透と考え合わせると、隣接地の富田遺跡群の古墓群、あるいは点在する中世石造物とともに、中世における荒砥地区の信仰形態を考える上で貴重な資料になると思われる。
- 6. 女堀については、道路施工上の制約などによりトレンチ調査を実施したが、現在の北側の畔が 女堀の北の立ち上がりにほぼ対応すること、及びB軽石の純層(紫灰)の堆積後、時をおいて開 穿されていることが確認できた。

鶴谷遺跡群II

昭和57年3月31日 印刷 昭和57年3月31日 発行

発行 前橋市教育委員会 前橋市大手町二丁目12番1号 印刷 上毎印刷工業株式会社